

まずは 大井川基地

LPガスのほとんどは海外からの輸入です。タンカーで海を渡って運ばれてきたLPガスはまず輸入基地(1次基地)に貯蔵され、その後、大井川基地(2次基地)に運ばれます。ここで大きなタンクに貯蔵され、各地のガス充てん所への出荷を待ちます。見学ツアーでは、普段入ることのできない基地の内部をご紹介します!



これが内航船



LPガスを積んだ船が港に到着

国内航路を就航する船が内航船。LPガスを1次基地から2次基地へ輸送しています。大井川基地へ入港する内航船はおよそ500~800トンのLPガスを積載し、2日に1度の頻度でやってきます。午前8時頃に着岸し約3時間かけてガスの受け入れを行います。



基地は港のすぐ近く

スケールの大きさにビックリです!



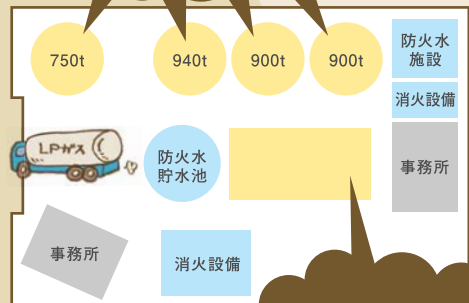
2



巨大ガスタンクは圧倒的な迫力

大井川基地は、内航船により届けられたLPガスをガスタンクに貯蔵し、ローリー車に積んで出荷する中継基地です。大井川基地には4基の球形ホルダーがあり、合計3490トンのガスを貯蔵できます。

ガスタンク



タンクローリー 出荷設備



基地の入り口には重量を計る鉄板があり、ガスの重量をタンクローリーごとチェックします。

必ず重量計に乗ります。



みんなで記念撮影 ハイ、チーズ!

高さ21メートル、直径16メートルのタンク。でっかい!

人がちっちゃーい



散水したら虹がでた!



非常時に備えて、タンクには散水装置がついています。



これが液化ガス!

業界の人も普段見ることはほとんどないという液化ガス。めったにお目にかかれない貴重な体験!



分厚い鉄板!

タンクは厚さ38ミリの頑丈な鉄板でできている。石油タンクの約6倍の厚さです。



満タンになったら発車オーライ!



3

ドンドン出発していきまーす

ガスを入れて充てん所へ

充てん出荷場所では、タンクローリーが次々にやってきて液体のガスを充てんし、また出発していきます。10カ所ある出荷ポイントから年間約11万トンのLPガスを出荷しています。

ひとくちメモ

LPガスの生産と流通

LPガスは地中から原油や天然ガスとともに産出・精製され、大きなタンカーで日本に輸出されます。加圧(7気圧)もしくは冷却(-42℃)により容積が約250分の1の液体になるため、一度に大量のLPガスを運ぶことが可能です。

産ガス国はサウジアラビア、UAE(アラブ首長国連邦)、クウェートなどの中東諸国が中心。原油を生産する際に中に含まれているLPガスを抽出し、輸出しています。日本では、約75%を海外から輸入しています。残りの25%は国内の製油所で、原油からガソリンや灯油等を作る過程で生産されます。原油も輸入されているため、ほぼ100%が輸入と考えられます。

